

ゴムローラークリーナー

1/4

化学物質等安全データシート

【製造者及び会社情報】

会社名 株式会社 東洋化学商会
 住所 東京都江東区亀戸9丁目37番1号
 担当者 開発部 川瀬 淳
 電話番号 03-3685-4351
 FAX番号 03-3637-5276
 緊急連絡先 本社開発部
 電話番号 03-3685-4351
 作成 2006年1月19日
 改訂

整理番号 1247-1019-01020906

【製品名】

ゴムローラークリーナー (発泡用)

【物質の特性】

製品区分 (単一・混合物): 混合物

内 容 成 分 (化学名又は慣用名)	含 有 量 [wt%]	化 学 式	既存化学 物質番号	CAS No	PRT法 政令番号	安衛法 通知物
①純水	60~70	H ₂ O		7732-18-5	対象外	対象外
②ミネラルスピリット	30~40	石油系混合物	(9)-1702	64742-81-0	対象外	649
③界面活性剤	1~10		(7)-97	61791-28-4	対象外	対象外

 国連分類 :
 国連番号 :

【危険有害性の分類】

分類名称 : 急性毒性物質。
 危険性 : 100℃以上で着火の危険があり、その蒸気は空気と一定の割合で混合すると爆発性混合ガスをつくる。
 有害性 : 液体に触れると皮膚の脱脂作用があり、蒸気を吸い込むと有機溶剤中毒を起こす恐れがある。液体や蒸気に接触すると目、鼻、喉等の呼吸器官や皮膚を刺激し炎症を起こす恐れがある。
 環境影響 : この物質は、動物や植物、鳥類、昆虫、水棲生物、微生物等に何らかの影響を与える可能性がある。この物質は、自然環境や水質系にとって有害であり悪影響を及ぼす可能性がある。

【応急措置】

眼に入った場合 : 可能であればコンタクトレンズを外し、すぐに多量の綺麗な流水で15分以上洗眼して下さい。
 皮膚に付いた場合 : 汚れた衣類等をすぐに脱がせ、多量の水(ぬるま湯)と石鹸で溶剤の付いた部分を十分に洗い流して下さい。また、溶剤が全身にかかった場合は、風呂やシャワー等で十分に洗い流して下さい。
 吸入した場合 : 患者を直ちに空気の新鮮な場所へ移して窮屈な衣服部分は緩めて、毛布などで保温して安静にさせて下さい。呼吸停止又は呼吸が弱い場合は人工呼吸を行い、呼吸困難な場合は酸素吸入を行って下さい。
 飲み込んだ場合 : 患者に意識のある場合は、水かぬるま湯で口を濯ぐ程度でなにも与えないで下さい。意識的に吐かせずに安静にさせて下さい。無理に吐かせると肺に入って化学性肺炎等を起こす危険性があります。尚、患者に意識の無い場合は、口から何も与えないで下さい。以上、いかなる場合に於いても、直ちに医師に連絡して、必ず診断を受けて下さい。

【火災時の措置】

初期対応 : 人を直ちに風上の安全な場所へ避難させ、消防署等へ連絡し、火災現場へはむやみに立ち入らせないで下さい。
 消火方法 : 初期消火を行う場合は、必ず保護眼鏡や空気呼吸器等の安全装備を着用して、風上より作業を行って下さい。

- 災害の拡大要素となる燃料供給源を断ち、移動可能な可燃物は速やかに安全な場所へ移動させて下さい。
- 移動不可能な場合、火炎に曝されている物の周辺及び容器等に散水して冷却する事は有効です。(延焼防止)
- 消火剤 : 但し、消火を目的とした水の使用は、危険性を増すので絶対に行わないで下さい。消火を行う場合には、専用の消火剤や消火設備を用いて下さい。粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス、ハロゲン化物など

【漏出時の措置】

- : 警戒筒先を配備し、漏出液付近の着火源(裸火、火花、高温熱源など)を取り除き、風下の人を退避させて下さい。
- : 揮発性液体の漏、蒸気が発生するので、特に屋内では窓を開けるなどして換気を十分に行なって下さい。
- : もし、蒸気発生が多い場合には、噴霧注水等で冷却し蒸気発生を抑制して下さい。
- : 漏出液は、砂や不活性吸収剤、ウェス等に吸収させて、密閉式の容器に可能な限り回収して安全な場所へ移して下さい。
- : 多量に流出した場合には、土砂やオイルフェンス等で流れを止め、安全な場所に導いて回収して下さい。
- : 回収作業を行う場合には、保護具(特別個人保護具、自給式呼吸器等)を装備、着用して、風上より作業を行って下さい。
- : 漏出液を下水や排水口、側溝等へは、決して流さないで下さい。

【取扱い及び保管上の注意】

- 取扱い : 労働安全衛生法、消防法等の関連法規に準拠して作業を行って下さい。必ず保護眼鏡、保護手袋、保護マスク等を着用して、出来る限り皮膚に触れない様に注意して作業して下さい。
- 取扱い後は、手洗い、うがい、鼻孔の洗浄等を十分に行い、衣服等に付着した場合には直ちに着替えて下さい。汚れた衣類等は必ず洗濯してから再着用して下さい。汚れたままの衣類等の再着用はやめて下さい。
- 取扱い作業では、漏溢、飛散などに注意し、蒸気発生を極力抑え、作業環境を管理(許容)濃度以下に保つ様に努めて下さい。
- 貯蔵 : 中身を容器から出し入れする場合には周囲にこぼれない様に十分に注意して下さい。取扱い場所では火気(裸火)、火花やアークが発生する物及び高温熱源など引火の危険性がある物を使用しないで下さい。充填、取出し、取扱い時に、圧縮空気を使用しないで下さい。
- 静電気対策を行い、作業服や作業靴等は通電性の良い物を着用して下さい。
- 容器は密閉式で、破損、腐食、割れ等のない物を使用し、転倒したり、落下したり、衝撃を加えたり、引き擦ったり等、粗暴な取扱いをしないで下さい。
- 指定された材料や物品以外の物とは、絶対に混合しないで下さい。
- 指定された用途以外(特にシンナー遊びなど)には、絶対に使用しないで下さい。
- 保管は出来るだけ涼しく直射日光の当たらない一定の場所を定めて、完全にフタをして保管して下さい。
- 貯蔵場所は、ボイラー等の高温熱源や火気のある所を避けて、通風を良くして換気の良い場所へ貯蔵して下さい。屋内貯蔵所や屋外タンク貯蔵所、地下タンク貯蔵所など消防法に定められた場所へ貯蔵して下さい。
- 強酸や強酸化剤等との混触を避けて隔離保管して下さい。
- 容器は常にフタを上に向けて置き、使用済み容器については一定の場所を定めて集積して下さい。
- 盗難を防止するため、倉庫等には必ず鍵をして保管して下さい。

【曝露防止及び保護措置】

管理濃度と許容濃度 : (単位 : ppm)

化学名	①純水	②ミネラルスピリット	③界面活性剤
管理濃度	設定なし	設定なし	設定なし
許容濃度			
日本産業衛生学会	設定なし	設定なし	設定なし
ACGIH (TLV) TWA	設定なし	100ppm	設定なし
OSHA			

設備対策 : 蒸気の発生源や取扱い作業場所には、密閉系設備または局所排気装置を設けて下さい。取扱い作業場所等で使用する電気設備や照明器具類は防爆構造の物を使用し、機器類は全てアースをして下さい。

保護具 : [呼吸用] 有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気・酸素呼吸器など
[顔面用] 保護眼鏡(飛散防止型、ゴーグル型)、顔面シールド

〔皮膚用〕耐溶剤性保護手袋（ポリウレタン系やラテックス等の材質の物）、不浸透性保護前掛など

【物理的及び化学的性質】

・外 観 等：	無色透明または微黄色透明液体	・溶 解 度：	〔水〕 溶解する成分を含有する。 〔他〕 種々の有機溶剤とは自由に混合する。
・臭 気：	芳香臭	・引 火 点：	なし
・蒸 気 圧：	2,338Pa (20℃)	・発 火 点：	250.0℃
・沸 点 範 囲：	100～190℃	・爆 発 限 界：	〔下限〕 0.8 vol. % 〔上限〕 7.0 vol. %
・融 点：	データなし		
・密 度：	0.931g/cm ³ (20℃)		

【危険性情報】

安定性及び反応性

爆 発 性	： 常温で蒸気を発散し、空気と一定の割合で混合すると爆発性混合ガスをつくる。
反 応 性	： 強酸や強酸化剤などと混合すると、化学反応して発熱や爆発の危険性がある。
安 定 性	： 通常状態では安定である。長期間保存した場合、製品が劣化する。
分解生成物	： 有用な知見なし。

【有害性情報】

腐 食 性	： 有用な知見なし
刺 激 性	： 液体及び蒸気は、眼、鼻、喉、呼吸器官、粘膜、皮膚等を刺激する。（発赤、灼熱感、痛み、炎症、失明等）。
感 作 性	： 有用な知見なし
急性毒性	： 経口②LD ₅₀ 28,300mg/kg（参考値）、③LD ₅₀ 2,000mg/kg（ラット）。
亜急性毒性	： 蒸気を吸入すると有機溶剤中毒や健康障害（吐き気、頭痛、目眩、嘔吐、知覚異常、昏睡、意識喪失等）を起こす危険性がある。吸入、経皮、経口摂取により体内に吸収される恐れがある。液体を飲み込むと肺に吸収されて化学性肺炎を起こしたり、胃腸刺激や吐き気、嘔吐、下痢等を起こす危険性がある。
慢性毒性	： 長期間反復接触により皮膚が脱脂されたり感作されたりする恐れがある。長期間の繰り返し使用により、肝臓、腎臓等の各臓器や脳、中枢神経系、遺伝子、血液、染色体、生殖器等に害や障害を及ぼす危険性がある。
がん原性	： 有用な知見なし
変異原性	： ③陰性。
生殖毒性	： 有用な知見なし
催奇形性	： 有用な知見なし
そ の 他	： 混合溶剤としての、人の健康への影響に関するデータが不十分なので、取扱いに際しては最大の注意を払う必要がある。アルコール飲料の使用により有害作用が増大する恐れがある。

【環境影響情報】

分 解 性	： ①②有用な知見なし。③BOD[g/g]=74%。
蓄 積 性	： ①②有用な知見なし。③なし。
魚 毒 性	： 有用な知見なし。
そ の 他	： この物質は、動物や植物、鳥類、昆虫、水棲生物、微生物等に、何らかの影響を与える可能性がある。この物質は、自然環境や水質系にとって有害であり悪影響を及ぼす可能性がある。水に対して特に注意すること。 ※この物質を故意に自然環境中に排出してはならない。

【廃棄上の注意】

： 中身を密閉式の焼却炉で燃やすと爆発の危険性がありますので絶対に焼却しないで下さい。中身を燃やすと有害なガスを発生する恐れがありますので絶対に焼却しないで下さい。中身は、特別管理産業廃棄物に該当するので、産業廃棄物処理法に基づき所定の手続きを踏まえた上で、専門の産業廃棄物処理業者に委託して廃棄処理して下さい。
： 容器は、中身を完全に使い切って、缶内部を完全に乾かしてから廃棄処理して下さい。中身を排水口や下水等に流したり、山林や河川、海などの場所への不法廃棄は絶対にしないで下さい。

【輸送上の注意】

陸上輸送	： 〔運搬容器〕 消防法で規定する運搬容器（石油缶、ドラム缶、タンクローリー等）を用いて下さい。運搬容器の構造、最大容積は自治省令で定めるものを用いて下さい。
------	---

- 【容器表示】 消防法の分類名称、品名、数量、注意事項（火気厳禁）など必要事項を表示して下さい。
- 【積載方法】 危険物第1類、第6類、高圧ガス及び災害発生の恐れのある物品との混載は厳禁です。危険物を収納した運搬容器を積み重ねる場合は、自治省令で定める高さ以下にして下さい。運搬容器の外部には、危険物の品名や数量等の表示をして積載して下さい。
- 【その他】 車輛等によって運搬する場合、荷送り人は運送者に運搬注意書（イエローカード等）を交付して下さい。運搬に際しては容器の漏れのないことを確認し、落下、転倒、衝突を避けてくださいタンクローリー等の荷役を行う際には、車止め、ホース等の結合の確固を十分に行って下さい。また、ホースの脱着をする場合は、ホース内部の残留物の処理を完全に行って下さい。

海上輸送
航空輸送

- ：船舶安全法等に準拠（手続き、表示、運搬容器、積載量など）して運搬を行って下さい。
- ：航空法等に準拠（手続き、表示、運搬容器、積載量など）して運搬を行って下さい。

【適用法令】

- 消 防 法 : 非危険物
- 労働安全衛生法 : 施行令 別表第9（通知対象物を含有する）
有規則 第3種有機溶剤
- 海洋汚染防止法 : 施行令 第1条の2別表第1の1（C類物質など）
- P R T R 法 : 指定化学物質は含有しない。

【その他の情報】

注 釈

本書の内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により改訂されることがあります。記載内容は現時点で入手出来た資料や文献等の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、如何なる保証もなすものではありません。

全ての化学製品には、未知の危険性や有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。本書には通常の危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないことは、保障出来ません。記載事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全策をご実施の上、取扱い願います。

引用文献

化学工業日報社：13599の化学商品、化学品別 適用法規総覧、国際化学物質安全性カード（ICSC）日本語版第1集・第2集・第3集・第4集、化学物質管理促進法対象物質全データ、労働安全衛生法MSDS 対象物質全データ、化学品法令集、新化学インデックス（2000年版）。丸善株式会社：危険物データブック[東京消防庁警防研究会監修]、ザックス有害物質データブック、環境化学物質要覧。オーム社：新版 溶剤ポケットブック[有機合成化学協会編]。株式会社成山堂書店：危険物船舶運送及び貯蔵規則並びに関係告示。中央法規出版株式会社：環境六法（平成4年版）[環境庁環境法令研究会編集]。株式会社廣川書店：中毒ハンドブック第11版。石油化学メーカー及び石油化学工業会：製品安全データシート、セーフティデータシート。